**＜　　　題　　　目　　　＞**

**『ICT利用による教育改善研究発表会論文』の見本**

研究発表者名・所属

共同研究者名・所属

連絡先（住所・TEL・E-mail）

|  |
| --- |
| **【概要】**  日本語（200～250字）で記述下さい  **キーワード：**（５つ以内） |

**１．教育改善の目的・目標**

問題の所在を具体的に明らかにし、アクティブ・ラーニング等による教育方法の改善、学修成果の測定と可視化など、教育の質的転換に向けたICT利用による教育改善の具体的な目的・目標及び解決策を研究する意義を明瞭にして下さい。

（例）問題の所在　　　：基礎学力の低下、自ら学び考える主体性の低下、学修意欲の低下、知識の関連付け・思考力の低下、教室外学修時間の減少、学修者一人ひとりの可能性を伸長する個別最適化への対応、遠隔試験の不正対策など

（例）研究の目的・目標：知識・技能の定着・活用、思考力・判断力・表現力の向上、知識の創造、問題発見・課題設定・解決力の向上、主体性･多様性･協働性の獲得、分野横断対話型授業による価値創造力等の向上、学修過程及び学修成果の可視化による成長支援、質を伴った学修時間の増加、ハイブリッド型授業の工夫・改善、遠隔授業の学修成果の測定評価、生成AIの授業利用による学修の改善など

**２．授業概要と教育改善の内容**

教育改善の目的・目標を達成するために、ICTを利用して、どのように改善しようとしたのか、改善の

　内容及び方法を示して下さい。

（１）授業概要

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関係性、学修到達目標、事前・事後の学修時間数

学修成果の評価方法、配当年次、単位数、クラス数、履修者概数など

（２）改善内容

改善を始めた時期と期間、改善の授業形態(アクティブ・ラーニング、双方向型授業、反転授業、PBL、TBL、事前・事後学修、協働学修、ハイブリッド型授業など)、改善研究の仕組み(PDCA)や改善で使用するツール、大学組織としての支援の有無など

**３．教育実践による教育効果とその分析**

学びが向上した等の教育改善の効果を客観的に示すため、以下の複数の観点を参考に組み合わせるな

どして客観的に示して下さい。（できるだけ統計的検定結果を含めて下さい。）

* LMSのデータ、ポートフォリオ等の分析、授業アンケート結果の経年変化とその分析、期末テスト

　等の経年比較とその分析、ルーブリック評価結果の分析、第三者による外部評価の分析、国家試験等

の合格者数の経年比較の分析など。

**４．結果の考察**

　　本研究の結果から、ICTの利活用によって教育改善に貢献した要因を考察し、課題や問題点及び今後の

　発展性、教育の質向上への寄与等について、示して下さい。

**５．謝辞(任意)**

企業、学生など研究に協力した人への謝辞は、ここに記載して下さい。

**６．参考文献および関連URL**

　　以下のように、表記下さい。

[1]著者：タイトル、論文誌名、巻番号（ゴシック体）、ぺ―ジ番号、年（西暦）

[2]著者：タイトル、出版社名、年（西暦）

[3]ホームページ名あるいは機関名　URL （[西暦]年○月○日参照）

**◎ 『発表会論文』は４ページ厳守です（図表・写真を含む）**

**別紙の『発表会論文』のフォーマット記載内容を参照下さい。**

**※文字フォント、文字数等を記載しています。**

**◎　発表会論文は、WordファイルとPDFファイルの2ファイル共に**

**提出してください。**